

昭和 55 年度論文賞受賞論文の決定

昭和 55 年度情報処理学会論文賞は、同選定委員会（高橋委員長ほか 17 名）において、「情報処理学会論文誌」第 20 巻 5 号～第 21 巻 4 号ならびに欧文誌「Journal of Information Processing」Vol. 2, No. 3～Vol. 3, No. 2 に発表された全論文 73 編につき慎重に審議が行われました。その結果下記 4 件が最終候補論文として推薦され、第 243 回理事会（昭和 56 年 3 月）の承認をえて決定されました。

なお、本会表彰規程により、5 月 20 日に開催された第 22 回通常総会において、著者に表彰状と賞金が授与されました。

○ “Specifying Software Systems with High Internal Concurrency Based on Actor Formalism”

〔欧文誌 Vol. 2, No. 4, pp. 208～218 (1980)〕



米澤 明憲君（正会員）

昭和 22 年生。同 45 年東京大学工学部計数工学科卒業。同 47 年同学修士課程修了。同 48 年より 52 年まで米国 MIT 計算機科学科博士課程に留学、この間 MIT,

Laboratory for Computer Science と Artificial Intelligence Laboratory にて、53 年に東京大学より工学博士。プログラムの意味論、方法論および人工知能の研究に従事。同 52 年 MIT より Ph. D. in Computer Science。同 53 年より現在まで東京工業大学理学部情報科学科助手として勤務。電子通信学会、ACM、SIGMA Xi 各会員。

〔論文概要〕

ACTOR 形式に基づいた交信するプロセスおよび並列計算の仕様技法の研究論文である。プロセッサあるいはプログラムモジュール (ACTOR) の“状態”に着目した仕様技法で、OS のような内部サブシステムが並列的に実行されるシステムの仕様記述、検証に有効である。付録に、実動しているある OS にこの技法を適用した例を付してある。また、プロセッサやモジュールの状態を数学的関数として定着するための方法が示唆されている。

〔推薦理由〕

本論文は交信するプロセスおよび並列計算についての仕様を記述する手段として、プロセッサあるいはプログラムモジュール (ACTOR) の“状態”に着目する技法を提案したもので、提案された技法は、オペレーティングシステムのように、内部サブシステムが並行的に実行されるシステムの仕様記述および検証に有効と思われる。プログラム理論の分野での顕著な貢献と考えられる。

○ “Design and Implementaion of a Multipass-Compiler Generator”

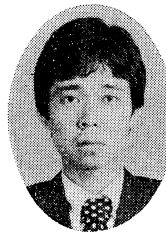
〔欧文誌 Vol. 3, No. 2, pp. 77～86 (1980)〕



佐々 政孝君 (正会員)

1948年兵庫県西の宮に生まれる。1970年東京大学理学部物理学科卒業。1974年同学理学系研究科博士課程中退、東京工業大学理学部情報科学科助手と

なる。1981年4月より筑波大学電子情報工学系講師。理学博士。記号処理、マクロ処理、プログラミング言語とその処理系、プログラム方法論、ソフトウェア工学に興味を持っている。ACM 会員。



篠木 剛君 (正会員)

昭和29年4月三重県生。昭和48年東京工業大学理学部入学。昭和52年同学部情報科学科卒業。同年同大学大学院理工学研究科情報科学専攻修士課程入学。

昭和54年同課程修了。同年(株)富士通研究所入社、現在に至る。主な興味分野は、プログラム言語処理系、オペレーティングシステム、記号処理、コンピュータアーキテクチャ等。



徳田 淳子君 (正会員)

昭和46年東京教育大学理学部応用数理学科卒業。以後、東京工業大学理学部情報科学科勤務。コンパイラ設計、コンパイラ自動生成系の設計等に従事。昭和

56年東京工業大学退職。現在、駿台電算専門学校非常勤講師。



井上 謙藏君 (正会員)

大正9年生。昭和19年9月九州帝国大学理学部物理学科卒業。東京大学、富士通(株)、東京工業大学を経て、現在、東京理科大学理工学部情報科学科教授。

主たる興味はプログラム言語、コンパイラ、コンパイラ発生、プログラム方法論等。

〔論文概要〕

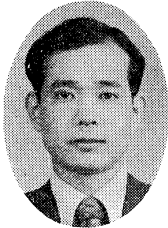
多パス構文解析を行うコンパイラを自動的に生成するコンパイラ生成系(コンパイラ・コンパイラ)について述べている。まず、多パス構文解析の概念を定式化し、それをコンパイラ生成系上で実現するための新しい機構を考案した。コンパイラ生成系への入力、コンパイラと使用者プログラムの実行時環境との記述であるが、完全で、また読みやすい形に書けるような記述法を設計した。たとえば、語い解析は正規表現を用いて、各パスの構文と意味は変形属性文法を用いて記される。また、コンパイラ作成中の労力を軽減するために、コンパイラの部分的な生成、再生成が簡単に行えるようにした。

〔推薦理由〕

本論文は多パス構文解析を行うコンパイラを自動的に生成するコンパイラ・コンパイラ的设计とその作成について述べたものである。まず多パス構文解析の概念の定式化と、それをコンパイラ・コンパイラ上で実現するために考案した新しい機構について述べ、さらにこのコンパイラ・コンパイラを用いてコンパイラを作成する際の労力を軽減するための配慮と工夫について述べている。システムプログラムの分野での顕著な貢献と考えられる。

○ 「PAD (Problem Analysis Diagram) によるプログラムの設計および作成」

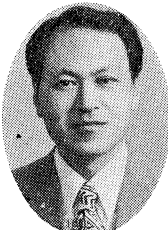
〔論文誌 Vol. 21, No. 4, pp. 259~267 (1980)〕



二村 良彦君 (正会員)

昭和 17 年生. 昭和 40 年北海道大学理学部数学科卒業. 同年(株)日立製作所中央研究所に入所. 現在は同所第 8 部主任研究員.

Harvard 大 MS (応用数学). 昭和 40 年より LISP, コンパイラ・コンパイラ, 部分計算法, 漢字端末, 銀行端末, PAD 等の研究開発に従事. 現在は, プラトン, デカルト, ポリア等の正統的問題解決法に基礎を置くプログラム設計法の確立を目差している.



川合 敏雄君 (正会員)

昭和 7 年生. 昭和 30 年東京大学物理学科卒業. 第一原理しか知らずに産業界(日立製作所)に投じた物理学徒として, 複雑な現実と自然の基礎法則を計算機で

結ぶ「計算実験」の可能性を夢みつつける. 手回し計算器以来の古いユーザで, 各地の職場で各種の対象と対戦して 1 勝 14 敗. 敗因は①計算機の演算速度が 3~4 桁不足②プログラム作りの困難にあるとし, いずれも超高性能科学技術専用計算機によってほぼ解決されると期待しているロマンチスト. PAD は②の問題をいくらかでも解決したいと考えているうちに生じたもので, 機械設計者や整理整頓主義者の間で採まれた私の汗と涙が織り込まれている. 昭和 56 年から慶応義塾大学理工学部物理学科.

〔論文概要〕

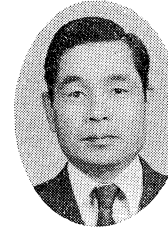
プログラムの論理は, 本質的に木構造として記述できる点に着目し, この木を目に見える形に書いた論理図面が PAD (Problem Analysis Diagram) である. 日立製作所中央研究所は PAD を開発し, 昭和 54 年 5 月以来普及活動を行ってきた. フローチャート等, 在来のプログラム論理図と比べ, PAD はプログラム論理を(1)簡潔に表現できる, (2)容易に目で捉えられる等の特長があるため, すでに 1,500 人以上の日立プログラマーが PAD を実務に使用している. 本論文は, 「PAD とは何か」を述べると共に, PAD に基づいたコーディング法, テスト法, データ構造記述法, PAD の有効性評価等について述べている.



堀越 彌君 (正会員)

昭和 15 年生. 昭和 37 年東京大学工学部応用物理学科卒業. 昭和 39 年同大学大学院応用物理学科修士課程修了. 同年(株)日立製作所中央研究所に入社. 以

来, 大型計算機システムの開発, ならびにオペレーティング・システムの研究に従事. 電子通信学会, IEEE 各会員.



堤 正義君

昭和 30 年東京大学工学部応用物理学科(物理工学専修)卒業. 同年通産省機械試験所入所. 昭和 36 年(株)日立製作所入所. 電子計算機の研究開発に従事.

現在, 同中央研究所副所長. HITAC 5020 をはじめ, 記憶装置, OCR, 磁気記憶装置, M-200H の開発に従事. システム, とくにソフトウェアシステムの開発方法に強い関心をもってきた.

〔推薦理由〕

本論文は、プログラムの論理を目で見ても判りやすく、簡潔に表現できる点で、流れ図などの従来のプログラム論理図と比較して、格段にすぐれたシステムである PAD をさきに開発した延長として、それに基づくコーディングの方法、テストの方法、データ構造の記述法などについて論じ、さらに PAD の有効性の評価を行った結果について述べたもので、ソフトウェア工学への顕著な貢献と考えられる。

○ 「あふれのない浮動小数点表示方式」

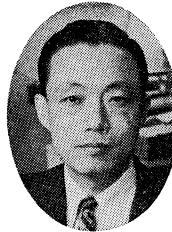
〔論文誌 Vol. 21, No. 4, pp. 306~313 (1980)〕



松井 正一君 (正会員)

昭和 31 年生. 昭和 54 年
東京大学工学部計数工学科
数理工学コース卒業. 昭和
56 年同大学院修士課程 (情
報工学) 修了. 同年より電
力中央研究所・情報処理研

究所に勤務. 数値計算, 数学ソフトウェア, 計算
量の理論に関連した研究に従事している. ACM,
日本 OR 学会各会員.



伊理 正夫君 (正会員)

昭和 8 年生. 昭和 30 年
東京大学工学部応用物理学
科 (数理工学) 卒業. 昭和
35 年同大学院博士課程修
了. 工学博士. 九州大学工
学部助手, 助教授 (通信工

学科), 東京大学助教授 (工学部計数工学科) を
経て, 現在同大教授. 回路, グラフ, 数値計算,
言語などの研究, 教育に従事. 昭和 40 年松永賞
受賞. 著書「Network Flow, Transportation and
Scheduling」など.

〔論文概要〕

従来の浮動小数点表現方式で問題となっていた指数部あふれを解決する新しい表現方式が提案されている. この表現方式は, 1 語中で指数部と仮数部との境界を動的に変化させて, 一方では指数部あふれを防ぐとともに, 他方では普通の大きさの数に対してより高い精度を確保するものである. “数の体系” を閉じたものとするのにどのような “非数” を導入すればよいかも示されている. 提案の方式をソフトウェア的に実現したものをを用いて, その効果が著しく発揮されるような実用的計算例をあげて, 新方式の有効性が実証されている.

〔推薦理由〕

本論文は, 古くから浮動小数点表示方式で問題となっている指数部のあふれの問題を解決するための新しい表現方式を提案したものである. 提案された方式は 1 語のなかでの指数部と仮数部の境界を動的に変化させることにより, 一方では指数部のあふれを防ぎ, 他方では大きな指数部を必要としない数に対してより高い精度を確保するようになっている. 本論文では, この方式をソフトウェア的に実現して, 実用的計算例について, その有効性を実証した結果についても述べている. 数値計算の分野での新しい試みとしてまた浮動小数点表示方式についてのアーキテクチャ上の示唆として顕著な貢献であると考えられる.

研究会開催通知

(昭和56年6月15日～7月31日)

研究会	日	時	会場	備考
人工知能と対話技法	6月19日(金)	13:30～17:00	第32森ビル	前号参照
コンピュータ・グラフィクス	6月23日(火)	13:30～17:00	機械振興会館	同上
記号処理	6月24日(水)	11:00～17:00	電通大	同上
分散処理システム	6月25日(木)	13:30～17:00	第32森ビル	同上
自然言語処理	7月2日(木)	10:00～15:30	機械振興会館	下記参照
マイクロコンピュータ	7月6日(月)	13:30～17:00	同上	同上
データベース管理システム	7月9日(木)	13:30～17:00	第32森ビル	同上
コンピュータビジョン コンピュータ・グラフィクス	7月16日(木)	13:00～17:00	九州芸工大	同上
ソフトウェア工学	7月17日(金)	13:30～17:00	第32森ビル	同上
医療情報学	7月18日(土)	13:30～17:00	機械振興会館	同上
計算機アーキテクチャ	7月22日(水)	13:30～17:00	第32森ビル	同上

◆ 第26回 自然言語処理(計算言語学)研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 長尾 真, 代表幹事: 田中穂積, 野村浩郷, 辻井潤一)

日時 昭和56年7月2日(木) 午前10時～午後3時半

会場 機械振興会館 地下3階2号室

[東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 都営6号線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷一東京タワー線東京タワー, 等々力一東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車, Tel. 03 (434) 8211]

- 議題**
- (1) ISO用語集及び用語集の定義体系としての考察 菅 忠義(学習院大)
〔概要〕 ISO データ処理用語集の紹介と, 問題点を指摘し, JIS 用語集との関係について述べる. 用語集の組織化についての意味論的方法の概要と今後の研究計画について述べる.
 - (2) 日本語文における法情報の解析
内藤昭二, 島津 明, 野村浩郷(武蔵野通研)
〔概要〕 意味理解という観点から不可欠な法情報の解析について, 言語資料の分析に基づいて述べる.
 - (3) 日本語文からのキーワード自動抽出システム
荒木啓介, 金子明夫, 高野文雄, 日夏健一(JICST)
〔概要〕 JICST 科学技術文献和文タイトルの自動切断, キーワード自動抽出, カナふりシステムについて述べる.

(4) 日本語埋め込み文の構文解析における諸問題

井佐原均, 田中穂積 (電総研)

〔概要〕 日本語埋め込み文の構文解析を右分岐型規則と左分岐型規則を用いて解析する場合のそれぞれについて利害得失を考察する。

(5) 拡張 LINGOL 上での日本語用言の形態素処理

松澤利彦 (信州精機), 西野博二 (筑波大)

〔概要〕 拡張 LINGOL 上に, 日本語用言の形態素処理を行う文法規則を作成したのでその概要を報告する。

◆ 第17回 マイクロコンピュータ研究会

(発表件数: 3件)

(主査: 森 亮一, 代表幹事: 阿草清滋, 内堀義信, 岡田義邦)

日時 昭和56年7月6日(月)午後1時半~5時

会場 機械振興会館 地下3階1号室(所在地は前記参照)

議題 (1) マルチマイクロコンピュータのシステム記述言語 MPL

茅野昌明, 安藤友久, 浜田 喬 (東大・生研), 山口 剛 (富士通)

〔概要〕 ポートで接続されたマルチマイクロプロセッサのシステム全体を統合して記述するためのモジュラ系言語の設計・試作。

(2) マイクロコンピュータ用言語 BASICAL

大場克彦, 喜利元貞 (島津製作所)

〔概要〕 BASIC を土台にレジスタ演算, ビット処理などを可能にしたマイクロコンピュータ用言語について報告する。

(3) 16ビット・マイクロコンピュータ 68000 用高級言語 S-PL/H の開発

神野俊昭, 西野秀毅, 加藤正道, 尾石辰郎, 横畑静生, 渡辺 坦 (日立)

〔概要〕 S-PL/H の言語仕様, 処理系, およびプログラム実行方式について, その特徴を述べる。

◆ 第25回 データベース管理システム研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 酒井博敬, 代表幹事: 有澤 博, 吉田郁三)

日時 昭和56年7月9日(木)午後1時半~5時

会場 第32森ビル 地下2階第一会議室

〔東京都港区芝公園 3-4, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 都営6号線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷-東京タワー線東京タワー, 等々力-東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車, 機械振興会館並び浜松町寄り徒歩1分, 東京タワー向い. Tel. 03 (591) 1351 (大代表)〕

議題 (1) 多層論理式のデータベース質問言語への応用

宇田川佳久, 大須賀節雄 (東大・工)

〔概要〕 集合演算のネストを含む問い合わせも多層論理式の範囲で定式化できることを示し, その論理式をデータベース検索手順に変換する方法を論じる。

(2) 分散型データベースシステム (JDDBS-II) におけるローカルデータベースプロセッサ (LDP-V 1.5) とその評価について。

滝沢 誠, 鈴木 信, 横塚 実 (情開協)

〔概要〕 第Ⅱ期分散型データベースシステム JDDBS-II における異種 DBS (CODASYL) に対する共通リレーショナルインタフェースシステムとしての LDP-V 1.5 とその評価について論じる。

(3) ネットワーク構造の特徴を生かした利用者インタフェースについて

秋口忠三, 鈴木淳之 (静岡大・電子科学研)

〔概要〕 CODASYL 型データベースの巡航経路を宣言的に設定することにより, 高度な問い合わせ要求を非手続き的に表現できる。

(4) 会話型 IR 言語 SOAR について

石井義興, 横田一正, 西林瑞夫 (ソフトウェア・エージー)

〔概要〕 SOAR (Set Oriented Architecture of Request) は ADABAS データベース内の文献, 人事, 顧客などの情報を検索のために開発されたシステムである。親言語からの CALL 形式と, ターミナルからの会話型式との 2 種類の利用方法がある。

◆第 13 回 コンピュータビジョン研究会

第 2 回 コンピュータ・グラフィクス研究会

共 催

(発表件数: 4 件)

CV (主査: 福村晃夫, 代表幹事: 高木幹雄, 鳥脇純一郎, 田村秀行)

CG (主査: 穂坂 衛, 代表幹事: 井越昌紀, 木村文彦, 松家英雄)

日 時 昭和 56 年 7 月 16 日 (木) 午後 1 時～5 時

会 場 九州芸術工科大学・情報処理センター

〔福岡市南区大字塩原 226, 国鉄博多駅 (中央出口側) より西鉄バス 47 番・48 番系統にて芸術工大前まで約 17 分, 西鉄福岡駅より大牟田線 (急行, 普通) にて大橋駅まで 6～8 分, 大橋駅より徒歩約 5 分, 福岡空港より芸工大までタクシーで 20～25 分, Tel. 092 (541) 1431 内 331〕

議 題 (1) 認識通信による文字・画像入力システム

中島健造, 印牧直文, 木田博巳, 荒川弘照 (横須賀通研)

〔概要〕 文字認識機能を活用し, ファクシミリから文字・画像を含む帳票を入力するシステムについて報告する。

(2) 形状の 3 次元的編集と応用

大宅伊久雄, 水野寿孝, 寺地 隆, 山岸政幸, 岩崎義人 (沖電気)

〔概要〕 3 次元形状のモデリングと修正操作の 1 方式について述べ, その応用例を概説する。

(3) 面補間機構を有する三次元形状表示装置 井越昌紀, 小西和正 (機振協)

〔概要〕 曲面を含む複雑な組み合わせ形状設計のための, 平面補間, 形状表示演算機構を有する表示装置の開発について述べる。

(4) コンピュータグラフィクスにおけるランダムスキャンディスプレイとラスタースキャンディスプレイの相補的使用 木村 滋 (九州芸工大)

〔概要〕 コンピュータグラフィクスにおいて, ランダムスキャンディスプレイのダイナミックな特性とラスタースキャンディスプレイの表示のリアリティ

を相補的に利用するソフトウェア・システムについて報告する。
(5) 九州芸工大・情報処理センターの見学

◆第19回 ソフトウェア工学研究会 (発表件数: 3件)

(主査: 木村 泉, 代表幹事: 久保未沙, 花田収悦, 原田賢一)

日時 昭和56年7月17日(金)午後1時半~5時

会場 第32森ビル 地下2階第二会議室(所在地は前記参照)

議題 (1) Capture & Recapture 法による潜在バグの推定法とその応用

伊士誠一, 中川 勉, 村田紀男(横須賀通研)

[概要] ソフトウェアの潜在バグを推定するため, 野生動物の頭数を推定するのに用いられている「Capture & Recapture 法」を適用する方法を述べるとともに, これをソフトウェアのリリース時期等に应用することについて提案する。

(2) 汎用事務処理パッケージのためのカスタマイズツール

中嶋 淳, 青木祐一郎, 青木 鼎, 小関正彦(日電)

[概要] 汎用事務処理パッケージを導入するうえで, つねに問題となるカスタマイジング作業を軽減するためのツールについて紹介する。

(3) オンライン・マニュアルの効果的な利用

村井 純, 大和喜一(慶大・理工)

[概要] UNIX のオンライン・マニュアルをコマンドインタフェースの面から積極的に利用するためのシステムとその使用例を紹介する。

◆第10回 医療情報学研究会 (発表件数: 3件)

(主査: 大島正光, 代表幹事: 稲田 紘, 開原成允, 溝口文雄)

日時 昭和56年7月18日(土)午後1時半~5時

会場 機械振興会館 地下3階2号室(所在地は前記参照)

議題 複数の医療機関が協同してデータベースを作成することについて

(1) 腎透析患者のデータベースについて 小高通夫(千葉大・外科)

(2) 組織型適合データのデータベース 高橋 隆(東海大・医用電子)

(3) 未 定

◆第34回 計算機アーキテクチャ研究会 (発表件数: 3件)

(主査: 石井 治, 代表幹事: 有澤 博, 内田俊一)

日時 昭和56年7月22日(水)午後1時半~5時

会場 第32森ビル 地下2階第一会議室(所在地は前記参照)

議題 (1) データフロー計算機 D³P の実験システム

伊藤徳義, 来住晶介, 安原 宏, 河村保輔(沖電気)

[概要] データフロー計算機 D³P の中核をなす命令制御装置 IM (Instruction Memory) を試作し, その評価を行ったので, その結果と, D³P のアーキテクチャについて述べる。

(2) 抽象データのファームウェアによる実現の一方式

落水浩一郎, 原口英男 (静岡大・工)

〔概要〕 汎用性のあるデータ構造と高水準の操作を, ファームウェア化することにより, データ構造を物理記憶空間に写像する際の負担軽減をはかるための方式の提案と評価について述べる.

(3) ハードウェアによるコンパイラの実現: 設計とシミュレーション評価

平山正治, 工藤 司, 房岡 璋 (三菱電機・中研)

〔概要〕 高級言語の翻訳処理を端末装置等に行わせることを考え, PASCAL の翻訳処理を行うハードウェア装置の設計を行い, シミュレーションにより評価したので発表する.

* 今回は, 先の情報処理学会・全国大会において発表されたものから, 新しいアーキテクチャ関連の話題を選び, ご発表をお願いしました.

◆コンピュータビジョン研究会

昭和 56 年度の開催予定は 9 月 (東京), 11 月 (筑波), 1 月 (関西), 3 月 (東京) です. 発表希望者は, 開催月の前々月 5 日頃までに, 学会事務局研究会係までお申込み下さい.

◆医療情報学研究会

第 11 回研究会

日	時	56 年 8 月 11 日 (火)	午後 1 時半 ~ 5 時
会	場	電電・VRS センター (中央区銀座)	
議	題	画像データ通信システムの医療への応用	

欧文誌の原稿募集について

1978年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

- (1) 50ページ×4回/年=200ページ, A4判
- (2) 純学術研究発表誌とし、PaperとShort Noteを募集する。
 - (i) Paper(原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。
 - (ii) Short Note(2ページ以内に限る)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて、採録を認められた欧文による小論文。

3. 「情報処理」との関連

PaperとShort Noteの和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

- (1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い、1行65ストローク、ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し、パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で、欧文誌刷上り8ページに当たる。なお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は斜体(イタリック)となる。
- (2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。
 - (i) Paperのアブストラクト——200語以内
 - (ii) Short Noteのアブストラクト——50語以内
- (3) 図表(写真を含む)は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。
- (4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

- (1) コピー4部を送付する。
- (2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3号

6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000

「論理装置の CAD」講習会開催のお知らせ

LSI 技術の進歩と共に、論理回路の主流は SSI/MSI 独占の時代からカスタム LSI/マイクロコンピュータの急成長の時代へと移りつつある。

これらはまた、論理装置の設計手法にも大きなインパクトを与えており、論理構造の階層化を始めとして新しい設計技術の進歩を促している。

本講習会では、論理装置の設計技術を支える CAD について、以下の点について解説を試みる。

- (1) 概 説 CAD システムの役割、歴史、今後の課題
- (2) 論理設計 構造化設計、論理シミュレータ
- (3) 検 査 検査系列生成の手法、検査容易化設計
- (4) 実装設計 配置および配線の手法
- (5) CAD システム CAD システムの構成、データベース、マン・マシン・インタフェース
- (6) トピックス 最近のトピックス

日 時 昭和 56 年 9 月 29 日 (火) 9 : 00 ~ 16 : 30
30 日 (水) 9 : 00 ~ 16 : 00

場 所 機械振興会館研修 2 号室 (地下 3 階)

テキスト 情報処理叢書「論理装置の CAD」を使用する。

参加費

	テキスト不要	テキストを含む(会場渡し)	テキストを含む(事前郵送)
会 員	8,800 円	10,000 円	10,300 円
非 会 員	13,500 円	15,000 円	15,300 円
学生会員	3,800 円	5,000 円	5,300 円

申込締切 昭和 56 年 9 月 11 日 (金)

— プ ロ グ ラ ム —

第 1 日 9 月 29 日 (火)

- 概 説 (9 : 00 ~ 10 : 00) 加納 弘 (日立 CE)
- 休憩 (10 : 00 ~ 10 : 10)
- 論理設計 (10 : 10 ~ 12 : 30) 伊藤 誠 (山梨大)
- 昼食 (12 : 30 ~ 13 : 30)
- 検 査 (13 : 30 ~ 16 : 30) 樹下 行三 (広島大)

第 2 日 9 月 30 日 (水)

- 実装設計 (9 : 00 ~ 12 : 30) 吉田 憲司 (東 芝)
- 昼食 (12 : 30 ~ 13 : 30)
- CAD システム (13 : 30 ~ 16 : 00) 大津 一弘 (沖)

受付 No. _____

昭和 年 月 日

「論理装置の CAD」講習会参加申込書^(注1)

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 〒 _____

Tel. _____

標記講習会の参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当する欄に○印をつける)

	テキスト不要	テキストを含む(会場渡し)	テキストを含む(事前郵送)
会 員	8,800 円	10,000 円	10,300 円
非 会 員	13,500 円	15,000 円	15,300 円
学生会員	3,800 円	5,000 円	5,300 円

○送金方法

_____円を _____月 _____日送金します (金額, 送金月日を記入の上該当する送金方法を○印でかこむ)。

a. 現金書留 (同封)

b. 銀行振込 第一勧業銀行虎ノ門支店 1-013-945 三菱銀行虎ノ門支店 0000608

住友銀行虎ノ門支店 (東京公務部) 10899 三井銀行本店 4298739

富士銀行虎ノ門支店 993632

名義人 社団法人 情報処理学会

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No. _____)

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

その他 (連絡事項をご記入下さい)

(注) 1. 申込書は1枚1人として下さい。(この用紙をコピーしたものでも可)

2. 本学会賛助会員は1口1人として正会員に準じます。

情報処理学会第 23 回全国大会について

——概要と論文募集要領——

全国大会を 56 年から年 2 回春、秋に開催することになり、第 23 回全国大会は下記により開催します。論文発表を希望される会員は、下記要領により、早目にお申込みください。

開催期日 昭和 56 年 10 月 14 日(水)～16 日(金)

会 場 東京大学工学部 (文京区本郷 7-3-1)

応募資格 本学会個人会員 (正会員, 学生会員) に限ります。共同発表の場合には、登壇発表者は会員でなければなりません。ただし、登壇発表は本大会中 1 人 1 回に限ります。また、発表は日本語または英語で行うものとします。なお、56 年度会費未納の会員は、登壇発表ができません。

申 込 料 不要です。ただし、登壇発表される方は、論文集原稿を提出する際に、必ず参加費を納入してください。

申込方法 添付の講演申込用紙 (1 件 1 枚) に必要事項を記入し、宛先明記の原稿用紙送付用封筒 (大きさ A 4 判…21cm×30cm のもの。切手は不要) を同封のうえ、**56 年 6 月 22 日 (月)** までに (必着)、下記申込先へお送りください。

論文提出 所定の原稿用紙を 7 月下旬に送付しますので、昭和 56 年 8 月 31 日 (月) までにご提出ください。用語は日本語または英語に限ります。

そ の 他 詳細については、決定次第本欄にてお知らせします。

申 込 先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内 308-3 号室
(社)情報処理学会 第 23 回全国大会係 電話 03(431)2808

論文該当分野

1. 基 礎
 - a. 計算理論, b. アルゴリズム, c. プログラム理論, d. その他
2. アーキテクチャおよびハードウェア
 - a. システムアーキテクチャ, b. 演算装置
 - c. 記憶装置, d. 入出力装置, e. 端末装置, f. 性能評価, g. 信頼性, h. 保守技術, i. マイクロプログラミング, j. その他
3. ソフトウェア
 - a. オペレーティングシステム, b. プログラミング言語, c. 言語処理, d. 性能評価
 - e. 信頼性, f. ソフトウェア工学, g. その他
4. データベース
 - a. データベーマシン, b. データマネジメント, c. 分散データベース, d. 性能評価
 - e. 情報検索, f. その他
5. コンピュータネットワークおよび分散処理
 - a. システム, b. アーキテクチャ, c. プロトコル, d. 性能評価, e. その他
6. パタン処理および人工知能
 - a. 文字認識, b. 画像処理, c. 自然言語理解, d. 音声, e. 人工知能・知識工学,
 - f. ロボット, g. その他
7. 数値計算
8. マイクロコンピュータ
9. 日本語処理
 - a. 文解析合成, b. 字づら処理・辞書,
 - c. 入出力, d. その他
10. オフィssystem
11. 技術, 産業への応用
 - a. CAD, b. CAM, c. グラフィックス
 - d. シミュレーション, e. その他
12. 経営・社会システムへの応用
13. その他

